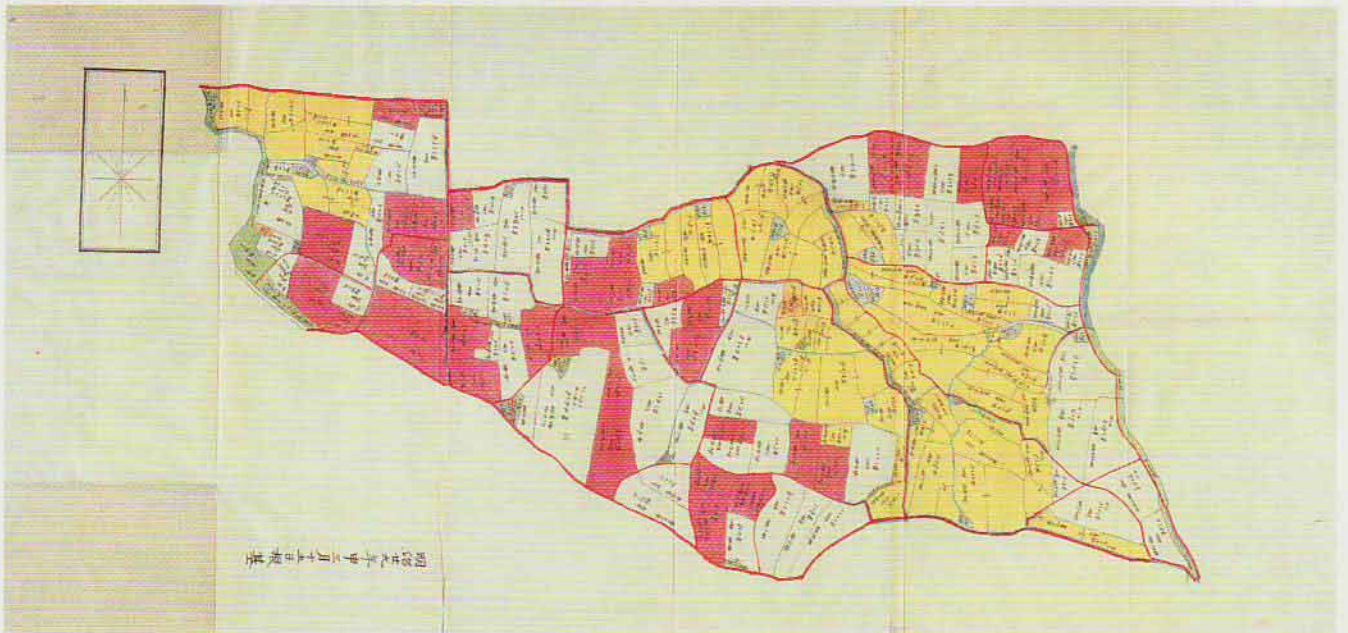


# 文書館だより

第28号

徳島県立文書館



**高尾村地所明細図**  
(明治29年)

明治時代中期の高尾村（現阿波市）の地所明細図の一部。黄色は田、白色は畑、赤線は道路というように色分けされている。高尾村は阿讃山脈南麓、宮川内谷川左岸の扇状地に位置し、村内には四国霊場七番札所十楽寺がある。江戸時代から甘蔗の栽培が盛んで、良質な砂糖を生産している。（個人蔵）

目 次	
歴史的文化遺産としての新聞.....	2
公開史料の紹介—西崎家文書・露口家文書—.....	3
地域の宝 市町村公文書の保存と活用.....	4
よりわかりやすく より楽しく	
徳島県立文書館ホームページの更改.....	6
文書館のあゆみ（平成18年7月～12月）.....	7
古文書の世界 公儀の制札を撤去せよ.....	7
講座のご案内.....	8
文書館の利用案内.....	8

平成20年1月22日(火)～4月27日(日)  
遊び学ぶ子供から捨て子にまつわる事件まで、古文書に残る子供の姿にスポットを当てます。

**第34回企画展**  
「古文書の中の子供」  
人形浄瑠璃は、江戸時代以来人々の生活にとけ込んだ徳島を代表する文化です。当時の様々な資料から、その興行のにぎわいを紹介します。

平成19年10月23日(火)  
～平成20年1月20日(日)

**特別企画展**  
「阿波人形浄瑠璃—興行のにぎわい—」  
平成19年7月31日(火)～10月21日(日)  
神山町は、全国的にも貴重な明治以来の公文書の宝庫です。それらの中から、特に貴重な公文書を紹介し、歴史資料としての公文書保存の意義を考えます。

**第33回企画展**  
「村の公文書」  
平成19年6月1日(金)～7日(木)

**文書館ウィーク**  
平成19年4月24日(火)～7月29日(日)  
人物写真を通して徳島の近代史を振り返るとともに、写真技術の発展も紹介します。

**第32回資料紹介展**  
「人物写真で見る徳島の近代」

# 公開史料の紹介 — 西崎家文書・露口家文書 —

平成十八年度、徳島県立文書館では西崎家文書と露口家文書を公開した。それぞれ那賀川水系の下流部と上流部の近世から近代にかけての歴史を物語る貴重な史料群である。利用していただく際の手引きとして、この二つの史料群の概要を説明させていただきたい。

## 西崎家文書

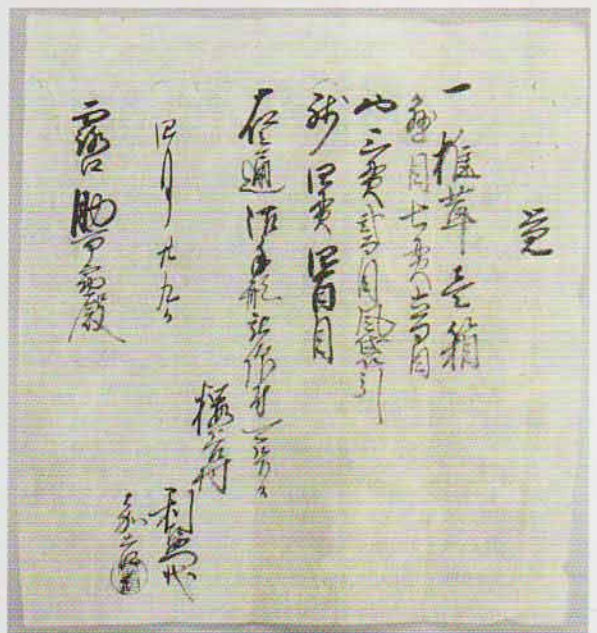
西崎家文書は、阿南市桑野町の西崎家が収集・保存していた史料群である。西崎家から徳島県立文書館に寄託され、整理の結果二、七一二点の史料が確認された。このうちプライバシーに関わるもの

などを除いた二、六二七点を今回公開した。

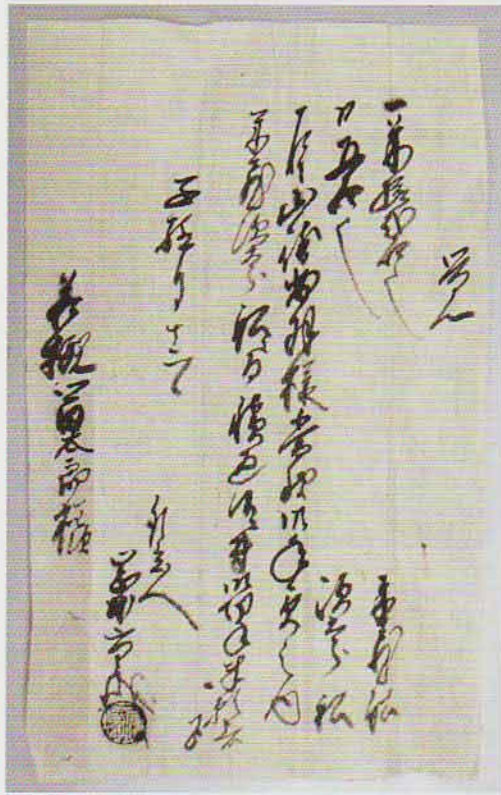
西崎家文書の大半は、表具師を営んでいた同家の先代当主が表具の材料として集積した物である。このため、史料は極めてバラエティーに富んでいるが、那賀郡坂野村（現小松島市）で組頭庄屋等を勤めた森家・若槻家の史料が中心となっている。坂野村周辺は米作地帯の一角を占めている。森家・若槻家関係史料の中には、年貢受取や年貢の輸送に関する膨大な手形類が残されており、徳島藩の年貢徴収・輸送システムの研究の貴重な史料となることが期待される。

## 露口家文書

露口家文書は、江戸時代に那賀郡花瀬村（現那賀町）の肝煎や林番・林目付を勤め、明治になってから那賀郡三十二番組里長、十小区戸長等を勤めていた露口家に伝来していた史料群である。徳島県立文書館に寄託され、整理により確認された一、一九〇点のうち一、一〇四点を今回公開した。非公開となった文書の大半は虫損によるもので、少しずつになってしまいが、補修して公開していきたい。



露口家文書 推草の流通に関する古文書  
江戸時代、推草栽培は山間部の重要な産業であった。



西崎家文書 年貢船積切手  
徳島藩の年貢納入・輸送システムを解明する上での基礎史料

露口家文書には少数ではあるが、中期の年号を記した文書がある。なかでも延野郷花瀬という花瀬村の地名の入った応安七年（一一三七四）・永和二年（一一三七六）の文書は検討する必要があるだろう。江戸時代の文書としては、露口家の『代統帳』に記載されている四代目徳右衛門からの文書が散見される。徳右衛門は享保七年（一七二二）の棟付帳によれば肝煎役を勤め、延宝二年（一六七四）依頼林番を勤めており、その関連文書が少数ではあるが含まれている。文書が多く残るのは、六代貞右衛門、七代助市郎、八代集兵衛、明治に入って九代貞七の四

代にわたってである。六代貞右衛門の代中、宝暦十三年（一七六三）に肝煎役を分家した弟に譲り肝煎役を離れたことや、寛政年中に林番から林目付と役名が変わったことがわかる。その後、助市郎と集兵衛の時代には、特に林目付の職務に関連する文書が多く残り、那賀奥仁宇谷地区の主産業である林業の研究に欠かせない史料となるのではと期待される。明治期に一時里長・戸長という広域村政に関わる仕事をしていたため、近隣の村政に関わる棟付帳や年貢関係の文書も含まれているが、虫損がひどいものであることが残念である。ともあれ、徳島の最も重要な産業のひとつであった林業を知ることの出来る注目すべき史料群といえるだろう。

# 歴史的文化遗产としての新聞

立石 恵 嗣

## 〈歴史資料としての新聞〉

社会の多種多様な出来事をつぶさに伝える新聞は、人間の真相を雄弁に物語る証言者である。この意味において過去の新聞は地域に生きた人びとの生活や生き様を物語る第一級の歴史資料であり、地域の近現代史を明らかにするために欠くことのできない史料的价值を有している。

明治二五年（一九九二）七月の「徳島日日新聞」に掲載された関義臣県知事の徳島県民の二〇万人北海道移住計画策は、「徳島県史」や「徳島県議会議史」にも記録されていない史実の再発見であり、新聞資料が徳島県の北海道移住史研究に一石を投じた好例である。

特に、昭和二〇年（一九四五）七月の米軍による徳島大空襲により、徳島県庁に収蔵された公文書をはじめ、基本となる歴史資料を失ってしまった本県において、新聞は歴史資料として不可欠の記録であり、歴史的文化遗产として重要な意味を持っている。

文書館としても、徳島の近現代史を明らかにするための不可欠な歴史資料として新聞を積極的に収集・保存・活用していきたいと考えている。歴史資料の調査

収集作業の際、県内各地において断片的ではあるが古い新聞資料の山にしばしば遭遇する。ただ、その資料群が断片的であったり、逆に膨大な分量のため収集を躊躇することが多い。新聞資料の有効で効率のよい収集・保存作業が緊急の課題となっている。

## 〈新聞資料のデジタル化〉

これまで、過去の新聞資料はマイクロフィルムによる保存・利用が一般的であった。徳島県立図書館においては地元紙「徳島新聞」の前身である「徳島毎日新聞」と「徳島日日新聞」などがマイクロフィルムによって保存・利用されている。しかし、残念なことに多くの年・月の原紙を欠いているため歴史資料として充分なものといえない。

また、ロールフィルムによる閲覧は長時間見続けると酔い状態になることは利用者の多くが体験するところである。

ところが近年の記録資料の活用に関するデジタル技術の発達は、この分野に大きな福音をもたらしている。最新の新聞デジタルデータシステムでは、検索したい項目やキーワードを入力すると、即座に関連する記事項目がリストアップさ

れ、クリックするとたどころに該当紙面が画面に表示される。伸縮や拡大表示も自由自在であり、デジタル化によるメリットは絶大である。

読売新聞社など大手の全国紙では、創刊号以来のデジタル化によるデータの提供が事業化されており、若手の近現代史研究者によりこのデータベースを活用した研究も生まれはじめ、研究のスタイルさえ変わりつつあるとも云われている。

このようにデジタル化による利用が簡便になることで歴史資料の宝の山に踏みいる利用者が増え、歴史的事実が続々と発掘され、研究が深化されることが大いに期待される。

地元の徳島新聞社には、社内にあるアーカイブズ（文書館）機能をもつ資料部を持ち、前身の「普通新聞」、「徳島毎日新聞」、「徳島日日新聞」などをあわせると創刊以来の原紙大半をカバーできる原本や複製を含めた新聞資料を保管している。また、新聞編集のデジタル化事業にともない、創刊以来の過去の新聞も含めた紙面のデジタル化の検討をはじめている。



文書館における新聞原紙の収蔵状況

本館としても、新聞資料の調査・収集・デジタル化事業に徳島新聞社や図書館、大学など他機関と連携し、英知を結集して徳島県民共通の歴史的文化遗产である新聞資料の保存活用をはかりたいと考えている。

蔵や倉庫の片すみに古い新聞がねむっているかもしれません。発見したら文書館まで一報を！

（館長）



配給関係公文書  
戦時中の神山町の状況を伝える貴重な資料である

今回の「平成の大合併」においては、前回の轍を踏まないために、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会や各種歴史研究団体が活動を展

（資料調査員）

膨大なこの文書を管理する人と場所が大きな問題である。一応、町文化財保護審議会が管理運営の責任を持ち、資料館に隣接した神山町農村環境改善センターに勤務する町教育委員会職員二名により、閲覧者の対応、文書の整理が行われている。

### 3、今後の課題

この作業には当時の郷土研究家の飯田義資氏、金沢治氏、藤丸昭氏などもたまたま参加されている。

この収集と整理に約十年を要した。町も昭和三十七年度から文書整理費として若干の予算を置き、臨時雇いの三人と文化

財保護審議委員が整理にあたった。結果として専用の書棚にこれも特別製のダンボール箱六五〇箱に納められ、旧村役場の文書約四八〇〇通が保管されている。

開し、総務省も「市町村合併時における公文書等の適切な保存」に関する通達を度々出している。また、鳥取県や山口県では県の公文書館が市町村公文書の保存活動に取り組んでいる。

徳島県立文書館では、これまで市町村職員を対象とした「公文書保存管理講座」を毎年開催してきた。また、シンポジウ

ム「市町村合併と文書資料保存問題を考える」の開催や旧木沢村役場公文書調査などを行ってきた。平成十九年度からは、公文書などの市町村の歴史資料の保存・活用をサポートするための活動に本格的に取り組むことになった。資料の保存に関するご相談等があれば、是非お気軽にご連絡いただきたい。

「公文書館法」（昭和六二年十二月一日公布・昭和六三年六月一日施行）には、「国及び地方公共団体は、歴史資料として重要な公文書等の保存及び利用に関し、適切な処置を講ずる責務を有する。」と公文書の保存利用に責務があることを明記されている。しかし、全国的に見ても公文書を保存するシステムが無いが、あったとしても十分に機能していない地方公共団体が少なくない。

システムが十分に機能していない理由はどこにあるのだろうか。昨年度当館で実施した「公文書管理・保存講座」の受講生（県及び市町村の文書担当者）のみなさんに、この質問を投げかけてみた。「職員に対する規程の周知が不足しているのではないか。」と答えた方が二八パーセント、「他の業務が忙しく、公文書の整理に手が回らないのではないか。」と答えた方が七一パーセントであった。もちろんこれは受講生のみなさんの「推測」であるが、実際に文書を担当している方々の見解として重要な示唆を与えてくれる。

予算・人員共に地方公共団体のスリム化が進められている昨今。どのようにして、担当者に負担を掛けず効率的な公文書保存を進めていくかを、みなさんと一緒に模索していきたい。

## 地域の宝

### 市町村公文書の保存と活用

市町村が保有している公文書は、その地域の歴史を語る一級の歴史資料であると同時に、当該市町村がその地域の成り立ちや様々な過程を踏まえて行政サービスを提供する上での重要な「情報資源」である。ことに戦前の県庁の公文書の大半が戦災で焼失している徳島県の場合、市町村公文書の持つ価値は一層重要なものとなってくる。

かつて昭和三十年代におこなわれた「昭和の大合併」において、市町村役場に保管されていた貴重な公文書などの大量廃棄が全国的に行われ、大きな問題となっている。徳島県名西郡神山町ではそうした合併での危機を乗り越え、「昭和の大合併」以前の旧役場資料が関係者の努力によって保存されている。神山町文化財保護審議会会長で徳島県立文書館資料調査員でもある稲飯幸生氏に、ご自身が関わってこられた神山町旧役場公文書の保存・整理および今後の課題について寄稿していただいた。

#### 神山町の旧村役場文書の保存

稲飯 幸生

##### 1、旧村役場文書

神山町は昭和三十年三月に五か村が合併してできた町である。五か村とは隣接した上上山村、下上山村、神領村、鬼籠野村、阿野村である。

この五か村の旧村役場の文書が神山町資料館に現在保管されているが、保管されるようになった経緯は次のようなものであった。

合併後、町役場は旧神領村役場に置かれ、他の旧四村役場は支所となった。昭和三十年代中頃から、この支所を年次的に改築し、旧村役場は取り壊されるということになった。その時、支所の倉庫に保管されていた旧村役場文書をどのように扱うか、ということが問題になった。

##### 2、村役場文書載の整理

最も簡単な処理方法として焼却ということがいわれたが、当時の文化財保護審



文書館職員も参加しての神山町旧役場公文書整理作業

議会が責任を持って保管したいと言うことを申し入れ、町当局の了承をえた。これは当時としては他に類のない賢明な発想であるが、文書の整理は簡単な作業ではなかった。

その後、審議会の委員は整理に没頭することに。校地を移転した神領小学校の旧校舎一棟を借り受け、支所から運搬した埃だらけの文書を整理したのであるが、その苦勞は並大抵ではなかった。

文書館のあゆみ

(平成18年7月～12月)

7月1日	古文書講座(初級)⑤ 鳴門教育大学学生研修 シンポジウム「学校資料の保存と活用を考える」 四国大学学生研修 資料調査(三好市東祖谷山支所他) 古文書講座(初級)⑥ 戦国織豊期研究会未館 富岡東高校生徒インターンシップ
8月1日	第31回企画展「江戸時代阿波の交通制度」(10月29日) 教職初任者研修(4日) 資料調査(4日) 文化の森人権啓発展(13日) 古文書保存講座(8日) IFLALSソウル大会プレコンファレンス(17日 国会図書館) 県教委事務局職員等人権問題研修会(県庁) 古文書講座(初級)⑧ 企画展展示解説 資料調査員会議 文化の森人権研修 古文書講座(初級)⑨ 映画「眉山」ロケ(25日)
9月5日	徳島の古文書を読む会運営委員会 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会役員会(愛知県自治センター) 資料調査(四国大学附属図書館) 古文書講座(初級)⑩・閉講式 資料調査(10月3日 三好市三野佐藤家) 古文書講座(中級)①福家清司氏「阿波一宮氏の史料について」 企画展展示解説
10月1日	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会例会(6日 奈良県立図書館他) 古文書講座(中級)②金原祐樹氏「徳術」の文書を読む 古文書講座(中級)③名倉佳之氏「石門心学史料を読む」 第37回全国都道府県史協議会(20日 津市) 古文書講座(中級)④立石恵嗣氏「明治期の古文書を読む」 共催展「利居水竹」(11月14日 阿波池田たばこ資料館) 古文書講座(中級)⑤徳野隆氏「江戸時代交通関係史料を読む」 歴史講座①橋本男氏「みる・きく・あるく歴史の道と峠」 第32回企画展「徳島近代交通史」(1月21日) 企画展展示解説
11月3日	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全開大会(10日 岡山市三木衛生会館他) 徳島音訳ボランティア来館 歴史講座②関口寛氏「昭和初期の徳島と繁華街」東新町を中心に 徳島の古文書を読む会合同学習会 中国四国地区文書館等職員連絡会議(12月1日 高松市ルポール讃岐他) 文化の森人権啓発展(10日) 市町村公文書整理支援(神山町農村環境改善センター) 徳島の古文書を読む会運営委員会 資料調査(13日 東京都公文書館・国立公文書館・国会図書館) 職員健康診断
12月5日	公文書管理保存講座 歴史講座③古本旭氏「写真に見る徳島の歴史」 県教委事務局職員人権問題研修会(県庁) 行政資料収集(県庁等) 文書館だより第27号発行 年末年始休館(1月4日)

古文書の世界 公儀の制札を撤去せよ

武田家文書『時勢見聞録』にみる時代の大転換

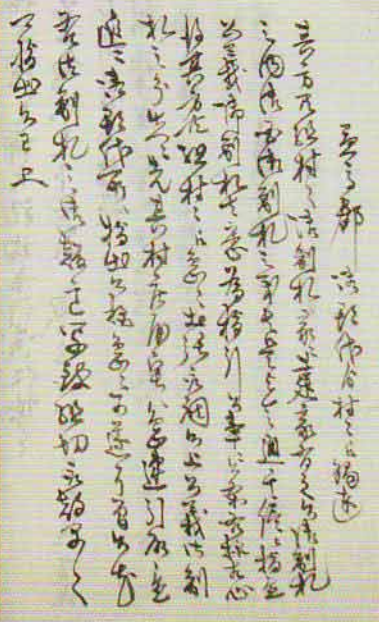
美馬郡東端山村(現つるぎ町)の武田家文書の中に、明治前期に村長などを勤めた武田浦三郎の手になる『時勢見聞録』という史料がある。そこには、浦三郎が日にしたであろう明治維新や庚午事変関連の多くの史料が綴られているが、その中に美馬郡代が出したような触達が

指出候様、急々可遂了簡候、尤右御制札之御趣意写致組切取都早々可指出候、已上  
正月廿三日 赤川大次郎  
沢瀬 操

美馬郡御郡代より村々江触達

其方共組村々御制札家二建家有之候御制札之内、御国御制札之義者是迄之通其儀二指置、公儀御制札者悉為指引候事二候条、右様相心得、其方共組村々江急々出張取調候上、公儀御制札之分、夫々先其村庄屋宅へ急速引取置、追々御郡代所へ

御国(徳島藩)の制札はそのままにして、公儀(幕府)の制札は早急に撤去し郡代役所へ提出せよ、というのである。前後の史料から見て、この触達が出されたのが慶応四年(明治元年・一八六八)の正月二三日、大政奉還から約三ヶ月、鳥羽伏見の戦いから二十日後のことである。阿波の民衆に時代の変転をこれほどストレートに印象づけた命令も少なかったのではないだろうか。天保十三年(一八四二)生まれの浦三郎はこのとき二十



武田家文書「時勢見聞録」

代半ばの多感な青年時代。後年、自身が同時代史として体験した歴史の転換点を振り返りつつこの史料を編んだときに、彼の胸中はどうのようない思いがよぎったのであろうか。

# よりわかりやすく、より楽しく — 徳島県立文書館ホームページの更改 —

平成十八年十月、文書館はホームページを更改(リニューアル)しました。更改のねらいは、見に来ていただく方に、

①シンプルでわかりやすく、②ページの更新をまめに行い飽きさせないホームページを作ることです。そのため、技術的にはブログ(weblogの略語)の技術を使い、ページ管理をほぼ文書館内で容易に行うことができ、ページの更新を頻繁に行うことを可能にした上に、緊急時にも対応できるものにすることができました。ここでは、更改で変わった部分と見どころを紹介していきます。

トップページは、文書館のカラーであるオレンジを基調に作成しています。左にページのカテゴリが並んでおり、好きな項目を選ぶことができます。どこに行っても一番上にある文書館のタイトルは残っていますので、そこを押していただければトップページに戻ってきます。パナーの下には「NEW」の項目があり、職員が見どころと考えている最新の更新項目にすぐ飛ぶことができます。その下に更新項目の一覧が並び、ホームページがどれだけ更新されているかを知ることができます。こちらには細かな更新の情報も載せています。

トップページタイトルの写真は、今後季節によって入れ替えていく予定です。利用案内の中にある文化の森の四季折々を写した文書館周辺の風景写真(スライドショーで見ることが出来ます)と共にお楽しみにしていただければと思います。

「利用案内」のカテゴリに入りますと、交通案内や館内の案内の外に文書館の「利用について」というコーナーがあります。ここでは、文書館の施設や資料の利用方法について書かれており、更に遠方の方の利用の便を図るため各申請書をPDFの形式で取り出すことができますようにしました。また、旧徳島県庁の一部を移築した文書館の建物を紹介するページもあります。

「文書館の逸品」から入りますと、文書館所蔵資料を紹介して作ったミニコラムを読むことができます。文書などの写真をクリックすると大きくなりますので古文書の細部まで見ることができ、古文書の勉強などにも使うことができます。文書館の職員が担当し、古文書以外の資料も含めて次々と紹介していく予定です。

「資料ファイル」から入りますと、過去の展示図録約六十点と「文書館だより」二十六点をPDF形式で見ることができ

ます。今後も、文書館がこれまで作成してきた資料や、文書館に関わる法令などを紹介していく予定です。

「行事の記録」から入りますと、文書館で行った行事の内、主だったものを写真や文章で見ることが出来ます。今後は映像も含めて紹介していくと考えています。

「学ぼう楽しもう」に入りますと、徳島文理大学人間生活学部メディアデザイン学科と共同で作成した、インターネット特別展示室があります。現在は、第三十二回企画展「徳島近代交通史—船から鉄道へ—」の関連企画として

「飯原一夫先生の絵で比べてみよう徳島のいま・むかし」と「拡大してみよう昭和初期の徳島観光案内パノラマ図 初三郎式鳥瞰図」の二つを見ることが出来ます。ここでは今後、さらにインターネットの特性を生かした企画を作り出していこうと考えています。

文書館所蔵資料の検索について



リニューアルされた文書館のトップページ

は、基本的に変わっておりません。トップページ「公開資料検索」から検索画面に入ってください。所蔵図書については同じくトップページの「文書館蔵書検索」から検索画面に入ってください。

文書館は、歴史資料の宝庫です。今後もこのホームページを窓口として多くの方が文書館に興味関心を深め、更に所蔵資料を積極的に利用していただけることをお待ちしております。

# 講座のご案内

## 二コース制の古文書講座

初級と中級の二コース制を採用し、より充実したものにしています。場所は当館講座室です。時間は午後二時から午後四時まで。

### ●初級コース

このコースは、文語体の読み方・くずし字辞典の引き方・文字の読み方・文意の取り方をはじめとして古文書で使用する文字の基礎をじっくりと確実に学習していただくコースです。

### ◇講座定員

四十名程度

### ◇申込締切

四月二十日(金)

### ◇講座日程

5/12・26、6/9・23

### ◇隔週土曜日

7/7・21、8/4・18、9/1・15の十回。

### ●中級コース

募集は初級コースとは別にし、初級コース修了者及びある程度古文書が読める方を対象とします。県下のさまざまな古文書を教材として学習していただきます。

### ◇講座定員

四十名程度

### ◇申込締切

九月十四日(金)

### ◇講座日程

9/29、10/6・13・20

### ◇(毎週土曜日)

27の五回。

### 【応募要領】

受講を希望される方は、往復ハガキに ①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④電話番号と、返信用に、ご自分の住所・氏名を

ご記入のうえ、徳島県立文書館古文書講座係までお申し込みください。なお、希望者多数の場合は、抽選させていただきます。

## 古文書保存講座

記録遺産としての古文書の保存や活用を図るため、史料管理の理論と実際について学び、古文書の修復や補修の実習をしていただく講座です。

### ◇講座定員

二十五名程度

### ◇講座日程

八月上旬頃の予定(決定し次第に広報します)

### 【応募要領】

受講を希望される方は、所定の申込用紙に必要事項をご記入のうえ、徳島県立文書館古文書保存講座係までお申し込みください。なお、希望者多数の場合は、抽選させていただきます。

※すべて無料です。

詳しくは徳島県立文書館古文書係までご連絡ください。



# 文書館の利用案内

## 利用方法

- 閲覧室の検索用端末機で必要な資料を検索し、閲覧票に必要事項を記入して、受付に提出してください。
- 閲覧室の書架に配置された行政資料等は、自由に閲覧できます。
- 資料の複写や出版物等への掲載は、受付へ申し込んで所定の手続きをしてください。
- 複写サービスは実費をいただきます。
- 資料の館外貸し出しは行いません。

## 開館時間

○午前九時三十分～午後五時

## 休館日

- 毎週月曜日(祝祭日の場合は翌日)
- 毎月第三木曜日
- 年末年始
- ※平成十九年八月十三日と十月二十九日は開館します。
- ※資料整理・燻蒸のため必要に応じて臨時休館することがあります。

## 交通のご案内

- ◇JR徳島駅から 徳島市営バス利用(約二十五分)
- ◇JR牟岐線文化の森駅下車徒歩約三十五分



## 文書館だより

第28号

平成十九年三月二十九日発行  
編集兼発行 徳島県立文書館  
〒七七〇一八〇七〇  
徳島市八万町向寺山

印刷  
文化の森総合公園内  
TEL 〇八八六六八一三七〇〇  
グランド印刷株式会社

ホームページアドレス <http://www.archiv.tokushima-ec.ed.jp> (徳島県立文書館)